

## 令和8年度 第1回甲賀市まちづくり活動センター運営協議会 会議録（概要）

【日 時】 令和8年(2026年)3月17日(火) 10:00～

【場 所】 甲賀市まちづくり活動センター 2階 多目的室1

○出席者

委 員 出席委員8人（内途中参加1名）、欠席委員1人  
（資料添付の名簿参照）

行 政 岩永市長

（事務局）吉川総合政策部長、山本総合政策部次長、築島課長、清水参事、桑山係長、  
西川主査、常盤主事、中土まちづくり推進員

傍 聴 0人

○会議の内容、議題

- 1 委嘱状の交付
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 委員長及び副委員長の選出
- 5 議 事
  - （1）会議の公開等について
  - （2）まる一む運営協議会の役割について
  - （3）まる一むの現状と課題について
  - （4）アクションプランの検討について
- 6 その他

### 【要点】

#### ① 会議の公開等について

・公開により傍聴可能とする。議事録は発言者名を明記した要点記録を作成し、市ホームページで公開する。

#### ② まる一む運営協議会の役割について

・市全体の間接支援を検討する「市民参画協働推進・検討委員会」と相互に作用・連携し、本協議会は物理的拠点である「まる一む」に特化した具体的な利活用ルールや仕組みの改善を担う。

#### ③ まる一むの現状と課題について

・登録団体の減少傾向に対し、SNS（Instagram等）の活用による広報強化や、ロッカー利用の利便性周知など、登録メリットを再定義する。

・近隣事業者との詳細なイベント情報の共有や、ドライブスルー業務等に配慮した音響・駐車場の事前調整の仕組みが必要である。

#### ④ アクションプランの検討について

・利用状況の定量的把握（時間単位の稼働率等）と運営指標の設定

- ・登録団体制度の再設計および目的の明確化（登録メリットの再定義）
- ・情報発信の強化（Instagram、X、TikTok など、若年層に届く SNS へのシフトと情報へのアクセス改善）
- ・利用ルールの柔軟化と利便性向上（芝生広場等の個別予約の検討、飲酒・火気使用等の社会実験の実施）
  - ・利用団体間の連携促進および利用者主体の運営基盤づくり（「まる一むサポートメンバー制度」の検討）
  - ・コーディネート機能の導入検討（利用者や周辺店舗との折衝・調整を担う「顔役」の配置）
  - ・周辺事業者との情報共有・連携強化イベント規模の事前共有、音響対策や駐車場利用のルール化）
  - ・若年層および学校との連携推進（夜間利用時の安全見守りや、学生の主体的な活動に対する支援）

## 【会議内容】

1 委嘱状交付（市長より委嘱状を交付。代表して黒岩委員が授受）

2 あいさつ

○岩永市長

委員就任へのご理解とご快諾に感謝申し上げます。

まちづくり活動センター「まる一む」は、市民主体で使いやすい施設を目指して整備され、現在は多くの市民に親しまれている。コロナ禍を経ながらも利用件数は増加し、活発に活用されている。

本協議会では、施設の活用状況や課題を踏まえ、今後より効果的で利用しやすい運営に向けた意見をお願いしたい。

今後も誰もが気軽に集い交流できる拠点として発展させていくため、引き続き協力をお願いします。

3 各委員の自己紹介

委員自己紹介、事務局自己紹介

4 委員長及び副委員長の選任

委員長を田口氏、副委員長を岡本氏として、一同了承

○田口委員長

この施設が多様な人々に利用されており、5年間の活動実績をもとに課題を議論する場として進めたい。外部の立場から有意義な進行をサポートする。

○岡本副委員長

市民が気持ちよく利用できる受け皿を整備することが重要。委員長を支えながら進

行をサポートしていきたい。

### (1) 議事の公開について

○田口委員長

「(1) 議事の公開について」事務局から説明を求める。

○事務局

公開により傍聴可能。議事録は委員名を明記し、要点記録を作成し、ホームページで公開する。

○委員一同

異議なし。

### (2) まる一む運営協議会の役割について

○田口委員長

「(2) まる一む運営協議会の役割について」事務局から説明を求める。

○事務局

※参考資料5～6、資料2に基づき説明。

○田口委員長

事務局から運営協議会の役割について説明があったが、質問があれば受け付ける。資料2に必要な部分が抜粋されており、後半で意見を聞きたい。

議論の大前提として、中間支援の議論が市役所内で別の委員会で行われていることを確認した。まる一む運営協議会としては、効率的な利活用と利用者の交流促進が主な目的であり、アイデアを出し合い、意見を交わすことが求められている。

### (3) まる一むの現状と課題について

#### (4) アクションプランの検討について

○田口委員長

「(3) まる一む運営協議会の役割について」及び「アクションプランの検討について」事務局から説明を求める。

○事務局

※事務局から資料3～4に基づき説明

○田口委員長

議題3番と4番について事務局から説明があり、これが今回のメインの議題とな

る。まる一むの現状と課題について、利用団体の皆さんから現場の意見を聞き、資料をより実情に即したものにしたい。皆さんの意見や感じていることをお聞きしたい。

○岡本副委員長

事務局への質問として、資料3の予約状況の「58」の数字について、分母となる数が不明確である。例えば、1ヶ月の営業日が30日、午前・午後で計60回予約可能な場合、そのうちの58回という理解でよいか確認したい。数字だけでは、実際にどれくらい利用されているのかがわからない。

○事務局

まる一むは時間単位で貸館しており、1件の申請を1回として集計している。しかし、分母が不明確であるため、この点については今後さらに検証が必要と考えている。

○岡本委員

「利用料金制」の観点から、予約回数に応じて最大料金が設定されるため、どれくらいの利用があるかを考慮しないと施設の維持が難しくなる。今後、利用状況を踏まえた検討が必要である。

○岡本副委員長

運営には目標数値を設定することが重要。目標に対する実績や、市民活動として必要な利用回数を把握し、その結果を整理することが望ましい。

利用団体（登録団体）の減少ということについて、事務局はどのように考察しているのか。

○事務局

利用団体は増えているが、登録団体が減少している理由は、登録によるメリットが感じにくいためと考えている。登録団体には早期予約や附属設備の利用などのメリットがあるが、情報発信や情報提供の面でそのメリットが実感しにくいことが主な原因と考えられる。

「登録団体数」と「利用団体数」は異なる。登録団体は、特典（早期予約、附属設備の利用など）を享受できる団体の集まりである。現在、約40団体が登録されており、登録を解除した団体も申請すれば利用できる仕組みになっている。利用者は登録団体でなければならないということはない。

○黒岩委員

「ござれGO-SHU！」のお祭りで利用団体として活動しているが、よさこいチームと

しては登録団体外である。

登録団体のメリットについては、実行委員の増加やお祭りの来客数増加などの実感はない。SNSで情報発信を行っているが、現在の若者はFacebookよりもX、Instagram、TikTokを多く利用しており、活動内容や紹介をこれらのSNSで提供することが有効だと考えている。

#### ○高須委員

活動の映像を提供したことがある。

#### ○黒岩委員

全員に情報提供がされているか不明で、Facebookなどで「登録方法」や施設の情報発信が不足している。QRコードなどで登録できる仕組みなどが必要。SNS（特にX、インスタ、TikTok）を使い、施設や利用者の情報を広めることが重要。市外の利用者に「まる一むがどこか」と知られていない現状もある。

一般利用者の予約が5ヶ月前から可能で、登録団体との差が1ヶ月のみでメリットが感じにくい。

芝生広場の利用について、全館押さえが必要なルールは敷居が高く、イベントでの利用が難しい。敷居を低くできないか。

施設の利用者層について、小さい子供には利用しやすいが、年齢が上がると物足りなくなる可能性がある。遊具については、衛生面や設置に関する課題等がある。

学生のマナーに関する問題もあり、ルールを設けることで改善できるのではないかな。

#### ○高須委員

一番のメリットは「ロッカーの利用」で、ダイヤル式ロッカーを活用し、楽譜などを他のメンバーに渡す際に便利であり、特にコロナ禍での交流が制限された中でも活用できた。これを他の団体にも広めたいと感じている。

登録団体のメリットとしてはロッカーが主なもので、登録団体数が思ったより少ないと感じている。

予約に関しては、多くのサークルが固定の曜日に利用しており、バッティングは今のところ発生していない。ただ、部屋の空き状況としては、少人数の方が練習場所を確保しやすいと感じている。

利用者同士で「登録団体だから」という付き合い等はない。来る曜日や時間帯が固定されているので、例えば違う曜日の違う時間帯に利用されている方とほとんど会うことがない。どういう方が使っているかというのもあまりよく私たちには見えない。

#### ○松岡委員

登録をすることで活動内容を認知してもらおう機会を得ていると感じており、特にメリットやデメリットとして考えたことはない。多く利用させてもらっており、感謝している。

若いダンサーを講師として招き、子どもたちに流行りのダンスを教えているが、さらに中高年向けのダンス（健康エクササイズ）や、スポーツ専門学校の学生を講師として呼び、市民に向けた筋肉強化のエクササイズなども提供できるのではないかと考えている。

#### ○田口委員長

登録の目的を明確にする必要があると感じている。メリットだけではなく、まる一むという施設や市役所が登録団体にどのようなメリットを提供するのかを整理することで、より前向きな改善が進むのではないかと思う。

「くさねっこ」の視察について、岡本委員に質問だが、利用者コミュニティの運営に「くさねっこ」がどのように関わっているのか、また、登録団体の活用や上手い手法、つながりの事例について教えてほしい。

#### ○岡本副委員長

「くさねっこ」は草津川跡地公園で活動する市民団体の総称である。市民活動を担当するコーディネーターが運営しており、公園利用には「5つの作法」がある。市民活動は誰でも参加できるように開放されており、年間70万人が訪れる中で、市民が気軽に参加できる環境が提供されている。

「くさねっこ」運営委員会は、活動ルールを決定し、社会実験を通じて実施している。例えば、飲酒や火気使用の制限を緩和するために実験を行うなど、柔軟に対応している。

草津川跡地公園は市民活動を優先しており、事業者のイベントは後回しにしている。市民活動団体同士でバッティングがあった場合は、コーディネーター調整を行っている。また、予約は毎年1月に翌年度の4月から12月分を受け付け、市民活動を第一にしている。最近ネットでの予約受付も導入されている。

#### ○田口委員長

登録団体やルール見直しに関して、まさに「くさねっこ」の取り組みが参考になると感じた。「まる一む」は、市民活動をテーマ型で支援する場所であり、テーマを持って活動する市民活動を後押しする拠点である。

市内にこうした団体がいくつあるかが把握できていない現状があり、団体の数を認知することで、相互に応援し合い、交流や大きなイベントを共に行うことができると考えられる。団体登録制度を「見える化」し、仲間づくりのために見直すことが重要

である。

メリット部分について、登録している団体と登録していない団体で予約の支払い方法や手続きの簡略化を進め、業務改善を図ることができると感じている。ロッカーの利用という活用方法を広めることも必要である。

ルール見直しについて、月1回の「くさねっこ」のような自治で運営されるテーマ型活動を参考にし、運営協議会のようなコミュニティがもっと多くのメンバーで構成され、頻繁に改善策を話し合う場を作ることが重要である。現在は市が全て段取りをしている状況なので、今後2~3年をかけて、利用者自身が改善できるコミュニティを育てていくべきである。

#### ○田口委員長

説明の後半で出てきた「民業圧迫」について、何をもって民業圧迫とするのかという点について、事業者側の観点から意見を求めたい。また、広場や駐車場、印刷機の料金の見直しについても、山中委員からご意見をいただくことが適切ではないかと思うが、いかがか。

#### ○山中委員

印刷料金は確かに安いですが、市内の4店舗の中で水口城南店のコピー機売上が低いわけではないため、値段についてはあまり気にしていない。また、大型印刷はまる一むなど限られた場所ではできないため、その点は理解している。

#### ○事務局

3月は自治会の総会などで多くの印刷依頼が来る。そのため、民間業者との棲み分けが上手くいってれば良いが、その点については影響を心配していた。山中さんがおっしゃるように、現状では上手く共存できているのであればありがたい。

#### ○山中委員

利用について、予約がなかなか取れないことが多い。会議を開催したいと思っても、かなり埋まっている状況である。

#### ○事務局

まる一む利用者の中には、ローソンで食べ物を買って、スターバックスでコーヒーを買って、まる一むで飲食を楽しみにしている方もいる。そのため、何か一緒にできることがあるのではないかと考えている。

#### ○山中委員

イベントの情報が入ってこないため、それに合わせて物を用意することができな

い。利用規模が全然分からないことも問題である。駐車場がいっぱいになると、ローソンに停めに来る方があり、少しくレームが発生している。また、花火の時期は特に多く、ゴミ箱に関してもローソンに捨てに来る方が一部いる。ただ、売上に繋がる部分もあり、全体としてはお互い様であり、区別することが難しい。駐車場の利用者が誰かを正確には把握できない状況である。

○松岡委員

去年と一昨年、まる一むでの文化祭に携わった際、スターバックスやローソンにも「開催します」という連絡が主催者側からあったと思うが、実際どうだったのか確認したい。

○山中委員

連絡が来ることはあるが、どれくらいの人数が見込まれるか、その「規模」がよく分からない。「大きなイベントをやります」という通知は受けるが、例えば、それに合わせてどれくらいの商品が必要か、また1,000人規模なのか50人規模なのかで準備が変わる。去年のイベントであれば予測が立てやすいが、初めてのものとスターバックスなどで人数やスタッフの配置が難しくなる。どれくらいの規模になるかが分かれば、物や人の準備がしやすくなるのでありがたい。

○岡本副委員長

草津川跡地公園では、1ヶ月前に「くさねっこカレンダー」をコーディネーターが作成し、それを周辺の商業施設にも共有している。このカレンダーを通じて、「皆さんの活動がこうなっていますよ」と伝え、協力をお願いすることで良好な関係を築いている。こうした情報発信は、お互いの協力関係を作る上で非常に重要である。しかし、事務局がこれを行うのは大変なので、仕組みを考える必要があると感じている。

○山中委員

イベントカレンダーのようなものがホームページに載っていたらいい。

○松岡委員

文化祭では、スターバックス側への音の影響などはなかったか。

○事務局

大きなイベントを行う際、これまで主催者側に「迷惑にならないか」という視点で説明をお願いしていたが、今回お話を伺って、規模や準備、賑やかさが集客に繋がるという新たな視点を得て、ありがたく感じている。音楽祭の際には、スターバックスのドライブスルーに直接的な影響があることをよく耳にしている。

#### ○事務局

主催者側とスターバックスの間で、どこまでが許容できるかを理解し合い、「ダメ」とは言わず、「この辺までできないか」と折り合いをつけていただいている。そうした調整をしながら進めていくことが大切だと思う。また、何か一緒にできることがあれば、ぜひ取り組んでいきたい。

#### ○岡本副委員長

草津川跡地公園では、コーディネーターが時間調整やスピーカーの向きなどの調整を行い、整理してパフォーマーに伝えている。こうした方法で円滑に進められるように配慮している。

#### ○田邊委員

まる一むが設立された年に3年生の担任をしており、コロナ禍で卒業式後にお別れ会をまる一むで開催できたことに感謝していたこともあって参加した。生徒たちはまる一むを喜んで利用しており、体育祭前の練習にも使わせてもらった。地域の施設（まる一むやみなくるプラザ）は便利でありがたいが、利用時に迷惑をかける生徒もいるため、ルール化が必要かもしれないと感じている。校長も積極的に地域とのつながりを大事にしており、今後も地域と若い世代のつながりを深めるために、まる一むや他の施設と連携していけたらと思っている。

#### ○黒岩委員

学生割引はあるのか

#### ○事務局

今のところ、学生割引の制度はない。

#### ○高須委員

私たちの団体では上の世代（お父さん・お母さん、おじいちゃん・おばあちゃん世代）のメンバーが多いが、夜遅くまで高校生くらいの方が勉強などを頑張っているのを見て、悪いとかやめろというのではなく、心配している方もいる。まる一むは22時まで開館しているが、18歳未満の方の利用は条例など決まりとして大丈夫なのか。

#### ○田邊委員

決まりとしては、18歳未満の利用は22時まで問題ない。自宅だといろいろ言われることが嫌で、まる一むで集中して勉強をしている場合もある。

## ○事務局

以前、保護者の方から「早く帰らせてくれ（指導してくれ）」とご心配の声を電話でいただいたことはあった。

## ○田口委員長

今回の会議を契機に、運営委員の皆さんは直接事務局と面識を持つことができた。今後、何か意見があれば、日常的にコミュニケーションを取っていただきたいと考えている。

また、子供たちや生徒たちがまる一むを利用する機会が増えている中で、以前は地域で子どもたちの名前を知り、声を掛けやすい関係性が築かれていたが、現在はそれが難しくなっていると感じている。しかし、まる一むに来る生徒は数十人程度であるため、名前を覚えやすく、積極的に声を掛けやすい状況を作ることがまる一むの良さであると考えている。

さらに、コーディネーターについてであるが、市役所の事務局職員はいるが、中間支援のコーディネーターとは異なる意味で、まる一むの施設管理や周辺店舗との折衝を担当する「顔役」が必要だと感じている。

また、イベントカレンダーなど業務体制の改善も重要であるが、最も重要なポイントは、コーディネーターの役割と、学生や皆さんとの関係性を改善することであると考えている。

この会議は年に4回程度の頻度で行われるため、次回まで待つのではなく、日常的にまる一むに対して思うことがあれば、どんどんコミュニケーションを取っていただきたいと考えている。運営協議会は、皆さんの意見交換や、事務局に対して検討してほしいことについてポジティブな意見を集める場であると思われる。

この会議の性質として、ここで決裁を下す場ではなく、認識合わせや方向性の確認の場であるため、何か思うことがあれば積極的に意見交換をしていただきたい。

## ○事務局

議題の6番目「その他」の第2回会議の日時について、運営協議会は年4回程度を想定しているが、次回の会議では草津川跡地公園の視察を考えている。日程調整は、改めて事務局のほうから皆さんへご相談をさせていただく。

もし今日、言い足りなかったことなどがあれば、後ほどメールで「こんなまる一むになったらありがたい」といった思いをぶつけていただければと思う。

## ○岡本副委員長

今日はたくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。草津川と比べるわけではないが、草津川はどちらかというと高齢の方々、シニア層が多い。中高生をどう取り込もうかというのが一つの課題だったので、逆に勉強させてもらった部分があ

る。非常に多世代の方々が、その世代を超えてコミュニティを醸成していくためには、たくさんの仕掛けが必要だと感じた。今後はそういったところで、お互いに意見を交わしながら形を作っていければと思っている。今日は皆さん、どうもありがとうございました。

終了 12時00分